

平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成28年11月11日

上場会社名 株式会社エヌジェイホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9421 URL https://www.njhd.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 筒井 俊光
 問合せ先責任者(役職名) 経営企画室長 (氏名) 野澤 創一 (TEL) 03-5418-8128
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日~平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	4,462	29.0	△329	—	△338	—	△398	—
28年3月期第2四半期	3,460	△53.7	△435	—	△445	—	△390	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △438百万円(—%) 28年3月期第2四半期 △398百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	△151.05	—
28年3月期第2四半期	△146.66	—

(注) 1. 平成29年3月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 平成28年3月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	5,665	2,942	47.1
28年3月期	6,353	3,407	48.7

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 2,669百万円 28年3月期 3,091百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	10.2	△200	—	△210	—	△290	—	△109.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	2,675,200株	28年3月期	2,675,200株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	37,075株	28年3月期	37,020株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	2,638,163株	28年3月期2Q	2,661,176株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成28年12月1日(木)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、事前に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国経済の減速など海外景気に弱さがみられ、わが国の景気回復に鈍さがみられるものの、各種政策の効果もあって、雇用・所得環境の改善傾向を背景に、個人消費も底堅く、緩やかな回復基調が続きました。

ゲーム業界におきましては、スマホゲームが国内市場を牽引しており、大手メーカーによる有力コンテンツの展開もあり、拡大傾向が続いております。一方、リリースタイトルの増加からユーザーの獲得環境は激しくなっており、ゲーム体験に対する要求水準の高まり等から、開発コストも増加傾向にあります。ハイエンド機による高いエンターテインメント体験を求めるユーザーにおいては、PC対応タイトルのリリースが歓迎されており、コンシューマー市場においても、新型機による優れたグラフィック体験が期待されております。

人材ソリューション業界におきましては、景気の回復基調が続いていることに伴い、人材需要は増えており、人材ビジネス市場は緩やかな拡大基調が続いております。求人数に対する求職者数の不足傾向が強まっていることから、正社員の求人も増加傾向にあり、人材紹介や紹介予定派遣の活用を目指す企業も増えてきております。一方で、人材派遣市場では、増加する求人ニーズに対する応募者の確保競争がより激しくなってきております。

モバイル業界におきましては、負担公平化に伴う端末価格の見直しにより、MNPによる顧客獲得競争が沈静化するなか、各通信事業者は、動画等の大容量コンテンツ利用に対する通信サービスの充実から大容量プランを発表し、また、格安SIM事業者も多様な大容量プランや新料金を続々と発表するなど、データ容量当りの料金単価が大幅に低下してきております。

このような事業環境の中、当社は、ゲーム事業におきましては新規案件獲得及びクライアント等との関係強化に努め、人材ソリューション事業におきましては派遣応募者及び技術者人材の確保に注力し、モバイル事業におきましては店舗運営の効率化と販売店における新商材の取り扱いに取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、以下のとおりです。

売上高は、前連結会計年度の期中に子会社化した(株)シェード及び(株)トーテックの期首からの連結取り込み並びにゲーム事業における運営受託による売上増加及び工事進行基準適用案件(※1)の増加から、4,462百万円と前年同期と比べ1,002百万円(29.0%増)の増収となりました。

営業損益及び経常損益は、人材ソリューション事業において損益の改善が見られ、ゲーム事業において運営受託収益の増加による寄与があったものの、開発案件の受注遅れ等により想定以上の未配属原価(※2)が発生したこと、また、モバイル事業においてMNPの沈静化による販売店部門の損益悪化により、329百万円の営業損失(前年同期は435百万円の営業損失)、338百万円の経常損失(前年同期は445百万円の経常損失)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純損益は、一部の固定資産について減損損失を計上したこと等に加え、法人税等を加減した結果、398百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失(前年同期は390百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

※1工事進行基準：開発の進捗度合いに応じて売上と原価を計上する方法

※2未配属原価：開発プロジェクト収支に紐付かない開発人件費等の原価

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① ゲーム事業

当セグメントにおきましては、(株)ゲームスタジオ、(株)トライエース、(株)シェード及び(株)エヌジェイワンにてゲームの開発受託及び運営受託を行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高については、運営受託による売上増加及び工事進行基準適用案件の増加等から、2,071百万円と前年同期と比べ963百万円(87.0%増)の増収となりましたが、セグメント損益については、受注時期が後ろ倒しになった案件や受注見込みであった案件の中止及び延期等が重なったことにより未配属原価が想定を大きく上回ったことから、83百万円のセグメント損失(営業損失)(前年同期は235百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

② 人材ソリューション事業

当セグメントにおきましては、(株)トーテックにて技術系人材の人材派遣及び人材紹介、携帯ショップに対する人材派遣並びにIT・バイリンガル人材派遣及び人材紹介を行っております。なお、当セグメントを構成していた(株)シーズプロモーションは、平成28年6月1日付にて(株)トーテックを存続会社とする吸収合併をしております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、前期第3四半期連結累計期間より連結対象となりました(株)トーテックの期首からの連結取り込みから、売上高は591百万円と前年同期と比べ230百万円(63.8%増)の増収となりました。セグメント損益については、企業の正社員採用への意欲の高まりを受け、紹介予定派遣への取り組みを強化したことから、派遣者数は計画値までには届いていないものの、第2四半期連結累計期間以降は順調に増加しており、業績改善に向けて着実に進捗しておりますが、一方で、携帯ショップ向け派遣人材の確保が困難な状況が続くなか募集コストが増加しており、また、新たに開始したゲーム人材サービスの立ち上げに伴う費用の発生から、12百万円のセグメント損失(営業損失)(前年同期は35百万円のセグメント損失(営業損失))となり赤字幅縮小にとどまりました。

③ モバイル事業

当セグメントにおきましては、(株)ネプロクリエイトにてauショップ、(株)キャリアフリーにて複数の通信事業者の端末・サービスを取り扱う販売店PiPoPark(ピポパーク)を運営しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、auショップ部門の販売台数は堅調に推移いたしましたが、販売店部門においては、MNPの沈静化により販売台数が大きく減少しており、通信関連の新商材や通信以外の新商材への取り組みとして、格安スマホ等の商業施設でのブース展開を試みているものの、上期における業績への寄与はまだ限定的であることから、売上高は1,775百万円と前年同期と比べ189百万円(9.6%減)の減収、セグメント損益(営業損益)は28百万円のセグメント損失(営業損失)(前年同期は38百万円のセグメント利益(営業利益))となりました。

④ その他

当セグメントにおきましては、クレジット決済事業や外食事業等を行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高は67百万円と前年同期と比べ39百万円(36.8%減)の減収、セグメント損失(営業損失)は5百万円、(前年同期は24百万円のセグメント利益(営業利益))となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は5,665百万円となり、前連結会計年度末と比べ688百万円の減少となりました。主な要因は現金及び預金398百万円の減少、のれんの償却等による144百万円の減少、ゲーム事業で上期に開発完了したことによる仕掛品90百万円の減少等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債は2,722百万円となり、前連結会計年度末と比べ223百万円の減少となりました。主な要因は、長期借入金の減少88百万円、ゲーム事業で上期に開発完了した案件の前受金102百万円の減少等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は2,942百万円となり、前連結会計年度末と比べ465百万円の減少となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純損失398百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度の通期業績予想につきまして、平成28年11月11日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて、下記のとおり修正しております。

売上高	10,000百万円	(前回予想から修正なし)
営業利益	△200百万円	(前回予想は30百万円)
経常利益	△210百万円	(前回予想は30百万円)
親会社株主に帰属する 当期純利益	△290百万円	(前回予想は20百万円)

詳細につきましては、平成28年11月11日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,769,309	1,370,670
売掛金	1,212,778	1,270,155
商品	213,043	222,310
仕掛品	168,449	77,637
貯蔵品	3,841	4,828
その他	252,973	131,780
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	3,619,991	3,076,979
固定資産		
有形固定資産	188,330	178,385
無形固定資産		
のれん	1,067,157	922,448
その他	359,707	327,724
無形固定資産合計	1,426,865	1,250,172
投資その他の資産		
差入保証金	801,429	788,609
その他	321,844	376,131
貸倒引当金	△4,800	△4,800
投資その他の資産合計	1,118,474	1,159,941
固定資産合計	2,733,669	2,588,499
資産合計	6,353,661	5,665,478
負債の部		
流動負債		
買掛金	630,300	623,023
短期借入金	264,230	340,555
1年内返済予定の長期借入金	287,167	284,303
未払法人税等	22,271	16,763
前受金	225,141	122,256
賞与引当金	45,934	88,005
受注損失引当金	18,911	26,487
その他	538,881	442,503
流動負債合計	2,032,837	1,943,899
固定負債		
長期借入金	494,261	406,068
退職給付に係る負債	149,946	149,857
その他	268,900	223,070
固定負債合計	913,108	778,995
負債合計	2,945,945	2,722,894

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	592,845	592,845
資本剰余金	278,481	288,154
利益剰余金	2,275,948	1,851,059
自己株式	△76,082	△76,161
株主資本合計	3,071,192	2,655,896
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,364	13,947
その他の包括利益累計額合計	20,364	13,947
非支配株主持分	316,158	272,740
純資産合計	3,407,716	2,942,584
負債純資産合計	6,353,661	5,665,478

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	3,460,126	4,462,289
売上原価	2,930,984	3,700,242
売上総利益	529,141	762,046
販売費及び一般管理費	964,914	1,091,087
営業損失(△)	△435,772	△329,040
営業外収益		
受取利息	701	31
受取手数料	11,783	171
不動産賃貸料	3,499	11,235
その他	2,775	4,987
営業外収益合計	18,759	16,426
営業外費用		
支払利息	12,365	10,600
支払手数料	12,983	8,747
不動産賃貸原価	2,691	6,191
その他	752	657
営業外費用合計	28,791	26,196
経常損失(△)	△445,805	△338,809
特別損失		
減損損失	—	50,377
賃貸借契約解約損	—	8,604
特別損失合計	—	58,982
税金等調整前四半期純損失(△)	△445,805	△397,792
法人税等	△54,884	34,461
四半期純損失(△)	△390,920	△432,253
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△639	△33,746
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△390,280	△398,507

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純損失(△)	△390,920	△432,253
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,347	△6,417
その他の包括利益合計	△7,347	△6,417
四半期包括利益	△398,267	△438,671
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△397,628	△404,924
非支配株主に係る四半期包括利益	△639	△33,746

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△445,805	△397,792
減価償却費	56,980	61,466
のれん償却額	70,439	94,331
減損損失	—	50,377
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,021	42,071
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	3,778	△89
受注損失引当金の増減額(△は減少)	38,031	7,576
受取利息及び受取配当金	△701	△31
支払利息	12,365	10,600
売上債権の増減額(△は増加)	81,519	△57,377
たな卸資産の増減額(△は増加)	△420,439	80,557
仕入債務の増減額(△は減少)	9,417	△7,276
前受金の増減額(△は減少)	519,538	△102,885
その他	△7,159	△63,133
小計	△80,013	△281,605
利息及び配当金の受取額	536	31
利息の支払額	△12,152	△10,600
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△944,671	84,155
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,036,301	△208,017
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△35,157	△19,922
差入保証金の差入による支出	△231,119	△29,909
差入保証金の回収による収入	27,378	37,545
投資有価証券の取得による支出	—	△88,020
資産除去債務の履行による支出	△2,868	△5,095
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△39,847	—
その他	△732	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△282,346	△105,406
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△52,380	76,325
長期借入れによる収入	250,000	130,000
長期借入金の返済による支出	△154,776	△221,057
長期未払金の返済による支出	△29,632	△40,538
リース債務の返済による支出	△5,787	△3,549
配当金の支払額	△26,248	△26,319
その他	17,161	△79
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,662	△85,218
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,320,310	△398,642
現金及び現金同等物の期首残高	3,738,591	1,759,309
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,418,281	1,360,666

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ゲーム事業	人材ソリューション事業	モバイル事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,107,680	313,587	1,964,908	3,386,175	73,950	3,460,126
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	47,647	—	47,647	32,158	79,806
計	1,107,680	361,235	1,964,908	3,433,823	106,108	3,539,932
セグメント利益又は損失(△)	△235,125	△35,987	38,635	△232,476	24,522	△207,954

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業、外食事業等、当社の当社子会社からの業務委託料等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△232,476
「その他」の区分の利益	24,522
セグメント間取引消去	△30
のれん償却額	△70,439
全社費用(注)	△157,349
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△435,772

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結会計期間において、(株)トーテックの株式を取得し、連結範囲に含めたことにより、のれんの金額が152,755千円発生しております。

なお、当該のれんの金額は、当第2四半期連結会計期間において、取得原価の配分等が完了していないため、入手可能な合理的な情報に基づき暫定的に算定された金額であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ゲーム事業	人材ソリューション事業	モバイル事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,071,397	548,483	1,775,363	4,395,244	67,045	4,462,289
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	43,241	—	43,241	—	43,241
計	2,071,397	591,724	1,775,363	4,438,485	67,045	4,505,531
セグメント損失(△)	△83,521	△12,082	△28,530	△124,134	△5,760	△129,895

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業、外食事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△124,134
「その他」の区分の損失	△5,760
セグメント間取引消去	3
のれん償却額	△94,331
全社費用(注)	△104,817
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△329,040

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに配分されていない固定資産について、減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては50,377千円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。